

## 種むらづくり推進協議会

～地域が一つの輪となる「むらづくり」～

## 種地区

人口：288人

高齢化率：41.7%（平成29年12月末現在）

## ★地区の状況

当地区は、益田市の中心部から東に車で約15分のところに位置し、浜田市に隣接しています。地区内には、県内有数の肉用繁殖肥育の松永牧場があり、全国における畜産の中心的役割を担っています。

明治22年に美濃郡種村となり、昭和30年に益田市と合併し、現在に至っています。

## ★地区の課題

急速な人口減少により少子高齢化がすすみ、農地の維持管理、交通手段の確保、後継者の育成など早期に取り組まなければいけない課題を多く抱えています。

## ★地域自治組織に向けての「種むらづくり推進協議会」について

種地区では、自治会を中心とした11の団体から構成される「種むらづくり推進協議会」を平成元年に設立し、地域が一つの輪となって行事運営および課題に取り組んでおり、さらに充実した組織を目指しています。

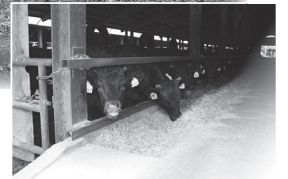
平成27年9月には、まちづくり計画案作成のため、中学生以上の全ての住民を対象に意識調査アンケートを実施しました。これに基づき「まちづくりプラン」を作成し、高齢者対策を重点目標に取り組んでいきたいと思えます。

## ★今後の取組

「種むらづくり推進協議会」の取組として、従来からの継続事業である地区出身者への「種だより・ふるさと便」の発送とフェイスブックによる情報発信を行い、定住促進につなげています。

今年は全日本自転車競技選手権大会が3日間開催され、さらなる交流人口の拡大と、地域を全国にPRする場となります。

また、農業法人による未耕作地対策等に取り組む、農業振興を図ることや高齢者支援、少子高齢化に伴う担い手の育成、自然（さくら公園・あじさい園・ホタル群生地）と伝統芸能（石見神楽）を活かした地域づくりを目指します。



松永牧場



ふるさとまつり



石見神楽



全日本自転車競技選手権大会

シリーズ

# 地域づくり

## 都茂地域自治組織設立準備会

～ささえ愛の都茂～

### 都茂地区

人口：973人  
高齢化率：50.3%  
(平成29年12月末現在)



#### ★地区の状況

当地区は美都地域の中央に位置し、福祉施設、公共施設、各種団体の本所・支所、医療機関、商店・事業所があり、美都地域の中心的な役割を担っている地区です。

地区の人口は年々減少し、ここ10年で254人、20%減少しました。高齢化率は50%を超え、買い物や移手段の確保など住民生活の不安、不便が生じています。

当地区は、平成24年に「都茂地区新しいコミュニティ設立協議会」を立ち上げ、地域の現状調査やIT技術を活用した情報発信の研究など、新たな地域運営の仕組みや地域課題解決に向けての取組を始めました。

その後、都茂地区の住民に公募し、平成26年に「都茂地区はっぴーターン推進会議」を立ち上げ、地域自治組織の設立に向けた講演会や研修会、先進地視察、都茂地区の現状把握と課題抽出のためのアンケート調査を行いました。平成28年には、都茂地区連合自治会、各自治会の本格的な参画を経て、平成28年2月に都茂地域自治組織設立準備会を立ち上げ、都茂地区の課題に対する具体的な取組やこれからの地域づくりについて話し合いを行なっています。

#### ★地域づくりの取組

##### ①都茂地区連合自治会輸送活動 ～ささえ愛号～

都茂地区は12の自治会により都茂地区連合自治会を構成し、都茂地区全体に関わる事業を行なっています。その中の代表的な活動が自治会輸送活動です。

運転免許証を持っていない、運転免許証を返納した、あるいはバス停が遠いなど、外出が困難な方々の生活環境は厳しくなっているため、外出時の送迎を行うことにより日常生活の利便性を図ろうと、平成26年3月に開始しました。活動開始以来、利用率は毎月80%を超え、住民の方々に「本当に助かる」と喜ばれています。



都茂地区連合自治会輸送活動  
～ささえ愛号～

##### ②各種団体活動

都茂地区には各種の団体があり、地域を盛り上げようといろいろな活動をしています。その中でも山本地区を主体に活動している「山本五五会」は、NPOの認定を受け、地域の高齢者に食事のおかずを無料で提供したり、研修会や他地区との交流会等の活動をしています。

##### ③都茂地区防災訓練

昨年、都茂郷自治会に「都茂郷防災協力会」が結成され、12月10日に都茂郷自治会・都茂奥自治会・都茂公民館共催の避難訓練が行われました。

住民の生活を守っていくには、住民同士の連携・協力・助けあい・支えあいが大切です。防災活動は地域を考える起点だと思います。

都茂地区では、今後も地域で支えあい、「住み慣れた土地で暮らし続けられる地域」を目指して、取組を進めていきます。



ふれあいホールみとへ  
避難する参加者